

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年2月14日

【四半期会計期間】 第99期第3四半期(自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)

【会社名】 大同特殊鋼株式会社

【英訳名】 Daido Steel Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 石 黒 武

【本店の所在の場所】 名古屋市東区東桜一丁目1番10号

【電話番号】 052(963)7523

【事務連絡者氏名】 経理部長 斉 藤 幹 郎

【最寄りの連絡場所】 東京都港区港南一丁目6番35号 東京本社

【電話番号】 03(5495)1253

【事務連絡者氏名】 東京総務室長 田 中 明

【縦覧に供する場所】 大同特殊鋼株式会社東京本社
(東京都港区港南一丁目6番35号)
大同特殊鋼株式会社大阪支店
(大阪市中央区高麗橋四丁目1番1号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第98期 第 3 四半期 連結累計期間	第99期 第 3 四半期 連結累計期間	第98期
会計期間	自 2021年 4 月 1 日 至 2021年12月31日	自 2022年 4 月 1 日 至 2022年12月31日	自 2021年 4 月 1 日 至 2022年 3 月31日
売上高 (百万円)	390,499	434,726	529,667
経常利益 (百万円)	31,174	39,094	39,200
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	22,203	28,186	26,894
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	25,769	31,434	34,168
純資産額 (百万円)	359,247	387,037	365,004
総資産額 (百万円)	710,492	788,167	728,187
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	520.87	661.25	630.94
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	45.3	44.5	45.3

回次	第98期 第 3 四半期 連結会計期間	第99期 第 3 四半期 連結会計期間
会計期間	自 2021年10月 1 日 至 2021年12月31日	自 2022年10月 1 日 至 2022年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	219.65	232.07

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載して
おりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりませ
ん。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要
な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等、または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症抑制と経済活動の両立が進み、景気の回復が期待されるものの、ウクライナ情勢の長期化に起因する原燃料供給の制約や世界的な物価上昇、また急激な為替の変動による混乱など景気の下振れリスクを内包した不透明な経営環境が継続しております。

このような状況の中、特殊鋼の主要需要先である自動車関連の受注は、半導体などを中心とした部品の供給不足に加え、中国におけるロックダウンの影響により、前年同期比で減少しました。同様に産業機械の受注も、供給制約の影響を受け減少基調となりました。また、半導体関連の受注は、5Gの普及やデータセンターの建設・更新需要により堅調に推移しておりましたが、足元ではシリコンサイクルの弱含みによる在庫調整の影響が出始めております。この結果、鋼材売上数量は前年同期比で減少しました。一方で、エネルギー関連、環境対応で需要が増加している自由鍛造品については、2016年以降、将来の需要増加を見越した戦略設備の投資効果により、その需要を捕捉することができており、高付加価値製品の受注が増加しました。

主要原材料である鉄屑価格は、国際価格の影響により高値で推移し、ニッケルなどの各種合金類については供給制約などにより前年を上回る価格で推移しております。また原油・LNG価格高騰により電力などエネルギーコストも増大しました。一方、適正マージン確保のため、徹底したコスト削減および販売価格の是正に継続して取り組みまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結経営成績は、売上高は前年同期比442億26百万円増収の4,347億26百万円、経常利益は前年同期比79億20百万円増益の390億94百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比59億83百万円増益の281億86百万円となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

特殊鋼鋼材

構造用鋼は、主要需要先である自動車関連や産業機械向けの受注減少を受け、前年同期比で数量が減少しました。工具鋼も、自動車減産の影響により、前年同期比で数量が減少しました。主要原材料である鉄屑価格は、国際価格の影響により高い水準で推移し、また、エネルギーコストは原油価格の高騰により増大しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における特殊鋼鋼材の売上高は、売上数量は減少したものの、原燃料価格の上昇を販売価格に反映させたことにより前年同期比11.9%増加の1,622億3百万円、営業利益は、前年同期比63億48百万円増益の85億11百万円となりました。

機能材料・磁性材料

ステンレス鋼および高合金は、自動車関連向け需要の減少に加え、半導体関連や電気電子関係では足元で一部在庫調整の動きがあり、前年同期比で数量は減少しました。磁石製品は、自動車減産の影響を受け、売上高は前年同期比で減少しました。粉末製品は、自動車減産により数量は減少したものの、原燃料市況の上昇を販売価格に反映させたことで、売上高は前年同期比で増加しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における機能材料・磁性材料の売上高は、ステンレス鋼の売上数量は減少したものの、ニッケルなどの各種合金の価格上昇により前年同期比14.5%増加の1,672億53百万円、営業利益は前年同期比10億54百万円減益の200億34百万円となりました。

自動車部品・産業機械部品

エンジンバルブ部品・型鍛造品および精密鋳造品は、自動車減産の影響を受け、それぞれ売上高は前年同期比で減少しました。一方、自由鍛造品は、重電需要、船舶用バルブが堅調に推移し、航空機需要も回復基調となっていることから、売上高は前年同期比で増加しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における自動車部品・産業機械部品の売上高は、自由鍛造品の売上高増加により前年同期比8.3%増加の752億30百万円、営業利益は前年同期比15億89百万円増益の59億13百万円となりました。

エンジニアリング

自動車部品向け熱処理炉の受注などが増加したことから、当第3四半期連結累計期間におけるエンジニアリングの売上高は、前年同期比3.8%増加の135億44百万円となりました。営業利益は、前年同期比16億40百万円増益の6億78百万円となりました。

流通・サービス

当第3四半期連結累計期間における流通・サービスの売上高は、前年同期比3.5%減少の164億93百万円、営業利益は前年同期比1億81百万円増益の25億2百万円となりました。

当社グループの当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前期末に比べ599億80百万円増加し7,881億67百万円となりました。総資産の増加の主な内訳は、「棚卸資産」の増加294億20百万円、「受取手形、売掛金及び契約資産」の増加85億73百万円、「電子記録債権」の増加73億10百万円であります。

総資産の増加の主な内訳と要因は、下記のとおりであります。

- ・「棚卸資産」は、主として原燃料市況の高騰により増加しております。
- ・「受取手形、売掛金及び契約資産」および「電子記録債権」は、原燃料市況の高騰に対して、販売価格の是正に取り組んだことにより増加しております。

また、当社グループの当第3四半期連結会計期間末の非支配株主持分を含めた純資産は、前期末に比べ220億32百万円増加し3,870億37百万円となりました。純資産の増加の主な内訳と要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益281億86百万円の計上等による「利益剰余金」の増加196億59百万円であります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は44.5%となりました。

(2) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費は46億51百万円であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	116,000,000
計	116,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2023年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	43,448,769	43,448,769	東京証券取引所 プライム市場 名古屋証券取引所 プレミアム市場	単元株式数は100株で あります。
計	43,448,769	43,448,769	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年10月1日～ 2022年12月31日	-	43,448,769	-	37,172	-	9,293

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができませんので、直前の基準日である2022年9月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

2022年12月31日現在			
区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 810,100	-	-
	(相互保有株式) 普通株式 31,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 42,490,100	424,901	-
単元未満株式	普通株式 117,169	-	1 単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	43,448,769	-	-
総株主の議決権	-	424,901	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式421株のうち400株(議決権の数4個)が含まれております。

【自己株式等】

2022年12月31日現在					
所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) 大同特殊鋼(株)	名古屋市東区東桜1-1-10	810,100	-	810,100	1.86
(相互保有株式) 丸太運輸(株)	名古屋市瑞穂区新開町22-20	17,800	-	17,800	0.04
川一産業(株)	川崎市川崎区大島3-7-14	12,600	-	12,600	0.02
東北特殊鋼(株)	仙台市太白区長町7-20-1	1,000	-	1,000	0.00
計	-	841,500	-	841,500	1.93

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2022年10月1日から2022年12月31日まで)および第3四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	58,142	74,560
受取手形、売掛金及び契約資産	125,502	1 134,076
電子記録債権	24,345	1 31,656
棚卸資産	174,624	204,044
その他	9,150	1 9,645
貸倒引当金	78	48
流動資産合計	391,686	453,935
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	78,832	78,551
機械装置及び運搬具（純額）	95,232	89,801
その他（純額）	49,636	50,842
有形固定資産合計	223,701	219,195
無形固定資産	3,776	4,208
投資その他の資産		
投資有価証券	86,456	82,299
退職給付に係る資産	15,840	20,432
その他	6,799	8,156
貸倒引当金	73	58
投資その他の資産合計	109,022	110,828
固定資産合計	336,500	334,232
資産合計	728,187	788,167

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	53,847	1 50,175
電子記録債務	11,321	1 11,730
短期借入金	84,562	123,710
コマーシャル・ペーパー	47,000	43,000
未払法人税等	10,157	3,245
賞与引当金	7,789	3,641
その他の引当金	528	403
その他	14,896	1 22,781
流動負債合計	230,104	258,687
固定負債		
社債	25,000	35,000
長期借入金	69,911	68,930
その他の引当金	4,240	3,903
退職給付に係る負債	13,402	13,631
その他	20,524	20,977
固定負債合計	133,078	142,443
負債合計	363,183	401,130
純資産の部		
株主資本		
資本金	37,172	37,172
資本剰余金	31,228	31,229
利益剰余金	238,443	258,102
自己株式	3,663	3,666
株主資本合計	303,179	322,837
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21,323	18,459
繰延ヘッジ損益	10	61
土地再評価差額金	657	657
為替換算調整勘定	4,968	6,193
退職給付に係る調整累計額	426	2,559
その他の包括利益累計額合計	26,533	27,931
非支配株主持分	35,290	36,267
純資産合計	365,004	387,037
負債純資産合計	728,187	788,167

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	390,499	434,726
売上原価	321,092	355,823
売上総利益	69,406	78,902
販売費及び一般管理費	40,492	41,247
営業利益	28,914	37,654
営業外収益		
受取利息	105	134
受取配当金	1,973	2,218
持分法による投資利益	514	364
為替差益	80	-
その他	1,389	1,323
営業外収益合計	4,063	4,040
営業外費用		
支払利息	605	675
為替差損	-	488
固定資産除却損	480	475
環境対策費	246	354
環境対策引当金繰入額	39	46
その他	432	561
営業外費用合計	1,804	2,600
経常利益	31,174	39,094
特別利益		
投資有価証券売却益	5,412	43
特別利益合計	5,412	43
特別損失		
減損損失	2,281	503
事業整理損	424	-
特別損失合計	2,705	503
税金等調整前四半期純利益	33,881	38,635
法人税、住民税及び事業税	9,593	9,372
法人税等調整額	145	617
法人税等合計	9,448	8,754
四半期純利益	24,432	29,880
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,229	1,693
親会社株主に帰属する四半期純利益	22,203	28,186

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	24,432	29,880
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,542	2,836
繰延ヘッジ損益	13	51
為替換算調整勘定	2,716	1,303
退職給付に係る調整額	108	3,005
持分法適用会社に対する持分相当額	39	30
その他の包括利益合計	1,336	1,553
四半期包括利益	25,769	31,434
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	23,106	29,585
非支配株主に係る四半期包括利益	2,663	1,849

【注記事項】

(追加情報)

１．新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り

前連結会計年度の有価証券報告書の（追加情報）に記載した、新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りおよび当該見積りに用いた仮定について、重要な変更はありません。

２．グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用

当社および一部の国内連結子会社は、第１四半期連結会計期間から、単体納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税および地方法人税並びに税効果会計の会計処理および開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日）に従っております。

(四半期連結貸借対照表関係)

(1) 偶発債務

下記の借入金について、債務保証を行っております。

() は連結会社負担分であります。

前連結会計年度 (2022年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)	
従業員(住宅融資)	108百万円 (108百万円)	従業員(住宅融資)	89百万円 (89百万円)

(2) 1 四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理

当第3四半期連結会計期間末日は、金融機関の休日ではありますが、四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理は、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

四半期連結会計期間末残高から除かれている四半期連結会計期間末日満期手形等は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
受取手形、売掛金及び契約資産	- 百万円	11,476百万円
電子記録債権	- "	4,673 "
流動資産その他	- "	65 "
支払手形及び買掛金	- "	2,018 "
電子記録債務	- "	2,411 "
流動負債その他	- "	98 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
減価償却費	20,079百万円	19,417百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月24日 定時株主総会	普通株式	1,065	25.00	2021年3月31日	2021年6月25日	利益剰余金
2021年10月28日 取締役会	普通株式	3,411	80.00	2021年9月30日	2021年12月6日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月24日 定時株主総会	普通株式	4,263	100.00	2022年3月31日	2022年6月27日	利益剰余金
2022年10月28日 取締役会	普通株式	4,263	100.00	2022年9月30日	2022年12月5日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	特殊鋼鋼材	機能材料・ 磁性材料	自動車部品 ・産業機械 部品	エンジニア リング	流通・ サービス	合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
売上高								
外部顧客への 売上高	144,915	146,011	69,437	13,044	17,091	390,499	-	390,499
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	51,730	11,069	21,300	277	10,670	95,048	95,048	-
計	196,646	157,080	90,738	13,322	27,761	485,548	95,048	390,499
セグメント利益 又は損失()	2,163	21,089	4,323	962	2,321	28,935	20	28,914

(注) 1 セグメント利益又は損失()の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(1) 連結子会社の事業年度等に関する事項の変更

一部の連結子会社14社について、第1四半期連結会計期間より決算日を3月31日に変更、または四半期連結決算日に仮決算を行う方法に変更したことに伴い、当第3四半期連結累計期間は、主として2021年1月1日から2021年12月31日までの12か月間を連結しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の「特殊鋼鋼材」における売上高は1,504百万円増加、セグメント利益は105百万円増加し、「機能材料・磁性材料」における売上高は2,526百万円増加、セグメント利益は158百万円増加し、「自動車部品・産業機械部品」における売上高は3,850百万円増加、セグメント利益は454百万円増加し、「流通・サービス」における売上高は4,640百万円増加、セグメント利益は179百万円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(1) 固定資産に係る重要な減損損失

当第3四半期連結累計期間において、「自動車部品・産業機械部品」で2,108百万円、「流通・サービス」で172百万円の減損損失を計上しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	特殊鋼鋼材	機能材料・ 磁性材料	自動車部品 ・産業機械 部品	エンジニア リング	流通・ サービス	合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
売上高								
外部顧客への 売上高	162,203	167,253	75,230	13,544	16,493	434,726	-	434,726
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	59,148	13,254	26,616	421	12,603	112,045	112,045	-
計	221,352	180,508	101,847	13,966	29,096	546,771	112,045	434,726
セグメント利益	8,511	20,034	5,913	678	2,502	37,640	14	37,654

(注) 1 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(1) 固定資産に係る重要な減損損失

当第3四半期連結累計期間において、「自動車部品・産業機械部品」で503百万円の減損損失を計上しております。

(収益認識関係)

(1) 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

報告セグメントごとの売上高を主要な財またはサービスの種類に分解した情報は、以下のとおりであります。

(単位:百万円)

報告セグメント	主要な財またはサービスの種類	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
特殊鋼鋼材	構造用鋼	107,646	124,673
	工具鋼	37,269	37,529
機能材料・磁性材料	ステンレス鋼・高合金	125,928	149,555
	磁石製品	20,082	17,698
自動車部品・産業機械部品	自動車部品	49,692	46,964
	産業機械部品	19,744	28,266
エンジニアリング		13,044	13,544
流通・サービス(注)		17,091	16,493
外部顧客への売上高		390,499	434,726

(注) 上記には「顧客との契約から生じる収益」以外の収益(企業会計基準第13号「リース会計基準」に基づくリース取引の収益)を含めて記載しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
1株当たり四半期純利益	520円87銭	661円25銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	22,203	28,186
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	22,203	28,186
普通株式の期中平均株式数(千株)	42,627	42,626

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

2022年10月28日開催の取締役会において、第99期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)中間配当につき、次のとおり決議いたしました。

- (1) 中間配当総額 4,263百万円
- (2) 1株当たり中間配当金額 100円00銭
- (3) 支払請求の効力発生日および支払開始日 2022年12月5日

(注) 2022年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払いを行いました。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年2月13日

大同特殊鋼株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

名古屋事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	高	橋	寿	佳
--------------------	-------	---	---	---	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	坂	部	彰	彦
--------------------	-------	---	---	---	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	滝	川	裕	介
--------------------	-------	---	---	---	---

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大同特殊鋼株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、大同特殊鋼株式会社及び連結子会社の2022年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。